

喀什噶爾
王布格拉

西曆九百六十六年、即ち宋の太祖の時（乾德四年）喀什噶爾王布格拉始めて「マホメツト」教を奉せしかば、民之に倣ふ者甚だ多く、後ち布格拉、兵を率ゐて土耳其斯坦を征し其國民の虜と爲りし者を天山南路に居らしむ。然れども、後ち大半を釋し、サマルカンドに歸らしめ、自餘は天山南路及甘肅省等に住居せしめたり。東干人は所謂其の遺族とす。

其後二百年、有名なる成吉思汗興り波斯、土耳其を統一し、其徒を率ゐて東に移り、支那を攻め、其の子阿格帶亦此徒を率ゐて來り攻む。其徒皆「マホメツト」教を奉じ、留まりて陝、甘二省に居る。是より該教多く新疆東部に行はれ、次で明末に土耳其の阿都喇汗來て、吐魯番に布教す。其の子九人長を阿布都刺父に次で汗と爲り、葉爾羌に次を阿布勅阿哈默特、三を賽伊特、共に吐魯番に、四を拜巴汗、哈密に、五を瑪哈默特、蘇勒且、喀什噶爾に、六を沙汗、庫車に、七は天死し、八を伊瑪業勒、阿克蘇に、九を伊ト喇伊木、和闐に居りて、各、宣教使たり。

以上八子中、瑪哈默特、蘇勒且最も權威あり。喀什噶爾の酋長（窩濶臺の裔）を逐ひ自立して派罕巴爾（回語天使の義なり）と稱す。是れを回部に酋長ある始とす。現今南路

阿都喇汗
の八子